

殿

仕 様 書

仕様書番号 FJS-F-2-技-0-194(12)

品 名 S-7C-FB

衛星放送テレビジョン受信用発泡ポリエチレン
絶縁ビニルシース同軸ケーブル



富士電線工業株式会社

平成 2年11月20日 制定	仕 様 書 S - 7 C - F B	起案作成	技術部
令和 3年 8月 2日 改定		発行責任者	技術部長

1. 適用範囲

この仕様書は、富士電線工業株式会社が製造する衛星放送テレビジョン受信用発泡ポリエチレン絶縁ビニルシース同軸ケーブルの次のサイズについて規定する。

S - 7 C - F B 灰、黒

なお、本製品は日本産業規格（J I S C 3 5 0 2 テレビジョン受信用同軸ケーブル）の認証品とする。

2. JISマーク

S - 7 C - F BはJISマーク表示品とし、認証番号は次の通りである。

JE0507012

3. 構造

付表1による。

4. 特性

付表2による。

5. 試験方法

5.1 外観

JIS C 3005(ゴム・プラスチック絶縁電線試験方法)の 4. 1による。

5.2 構造

JIS C 3005 の 4. 3による。

5.3 内部導体抵抗

JIS C 3005 の 4. 4による。

5.4 耐電圧

内部導体と外部導体間について行い、JIS C 3005 の 4. 6 b)による。

5.5 絶縁抵抗

内部導体と外部導体間について測定するものとし、JIS C 3005 の 4. 7. 1による。

5.6 特性インピーダンス

周波数10MHzで、同調法 又は その他適当な方法によって行う。

5.7 減衰量

直接法 又は その他適当な方法によって行う。

5.8 シースの引張り

JIS C 3005 の 4. 16による。

5.9 シースの加熱

JIS C 3005 の 4. 17による。

加熱温度 及び 加熱時間は、JIS C 3005 の 4. 17. 2の表5のBによる。

5.10 シースの耐寒

JIS C 3005 の 4. 22による。

冷却温度は、 -10°C 以下とする。

5.11 屈曲

完成品から適当な長さの試料を取り、 $18^{\circ}\text{C}\sim 28^{\circ}\text{C}$ の室温でケーブル外径の20倍の外径を有するマンドレルに沿って 180° 曲げてこれを原位置にもどし、次に反対方向に 180° 曲げてこれを原位置にもどす。この操作を10回繰り返し替えた後、解体して内部を調べる。

5.12 内部導体と絶縁体の密着

完成品から1m以下の試料をとり、その絶縁体を固定し、 $18^{\circ}\text{C}\sim 28^{\circ}\text{C}$ の室温で内部導体を引張ることによって行う。

引張速度は100mm/minまたは200m/minとする。測定値は1mに比例換算する。

6. 包装・荷姿

S-7C-FBは、1条ずつタバ巻又はドラム巻とし、運搬中損傷のない様に適当な荷造りを施す。

7. 環境負荷物質

S-7C-FBは、カドミウム・鉛・六価クロム・水銀及びその化合物を含有していません。

S - 7 C - F B

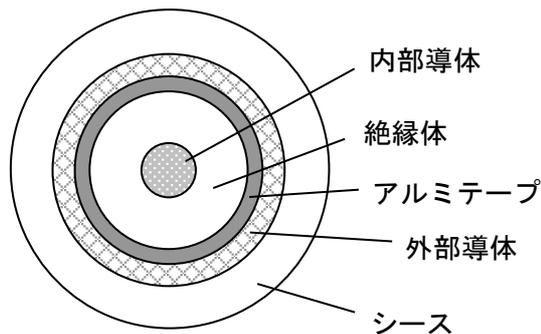
付表 1 構 造

項 目		規 格 値	
内部導体 (軟銅単線)	導 体 径 (mm)	1.5 ± 0.05	
絶縁体 (発泡ポリエチレン)	厚 さ (mm)	2.90	
	外 径 (mm)	7.3 ± 0.3	
外部導体	両面アルミ箔 貼付けプラス チックテープ	全体の厚さ 約(mm)	0.05
		アルミ箔片面の厚さ 約(mm)	0.01
	編 組 (すずめつき 軟 銅 線)	素 線 径 (mm)	0.18
		持数 × 打数	5 × 24 又は 7 × 16
		ピ ッ チ (mm)	65 以下
シース (塩化ビニル混合物)	色 相 (mm)	灰色 又は 黒色	
	厚 さ (mm)	0.95	
	仕上外径 (mm)	10.2 ± 0.5	
概 算 質 量 (kg/km)		105	

表面表示

S - 7 C - F B J E 0 5 0 7 0 1 2 ㊞ J E T F U J I E . W . C

断 面 図



S - 7 C - F B

付表2 特 性

項 目	規 格 値		試験方法
外 観	キズ、色ムラ等その他異常のないこと		5. 1
構 造	付表1による		5. 2
内部導体抵抗 (20°C)	1 0 . 4 Ω / km 以下		5. 3
耐 電 圧	交流 1 0 0 0 V に 1 分間耐えること		5. 4
絶縁抵抗 (20°C)	1 0 0 0 M Ω km 以上		5. 5
特性インピーダンス	7 5 ± 3 Ω		5. 6
標準減衰量 (20°C)	10 MHz	15.2 dB/km (最大: 17.5 dB/km 以下)	5. 7
	90 MHz	41.7 dB/km (最大: 48.0 dB/km 以下)	
	220 MHz	68.0 dB/km (最大: 78.2 dB/km 以下)	
	470 MHz	105 dB/km (最大: 121 dB/km 以下)	
	710 MHz	133 dB/km (最大: 153 dB/km 以下)	
	1489 MHz	210 dB/km (最大: 242 dB/km 以下)	
	2071 MHz	259 dB/km (最大: 298 dB/km 以下)	
	2681 MHz	306 dB/km (最大: 352 dB/km 以下)	
	3224 MHz	346 dB/km (最大: 398 dB/km 以下)	
シースの引張	引張強さ	1 0 M P a 以上	5. 8
	伸 び	2 0 0 % 以上	
シースの加熱	引張強さ	加熱前の値の 8 0 % 以上	5. 9
	伸 び	加熱前の値の 8 0 % 以上	
シースの耐寒	試験片が破壊しないこと		5. 1 0
屈 曲	シース及び外部導体上に、亀裂、破壊及び甚だしい変形など異常がないこと		5. 1 1
内部導体と絶縁体の密着	内部導体が、絶縁体から脱するまでの最大張力は 1 0 0 N / m 以上であること		5. 1 2